

日時：2014年2月14日（金）13:00-18:40

会場：ホテル日航福岡

主催：グローバル30採択大学

東北大学／筑波大学／東京大学／名古屋大学／京都大学／大阪大学／九州大学
慶應義塾大学／上智大学／明治大学／早稲田大学／同志社大学／立命館大学

共催：文部科学省

運営：九州大学

参加者：約410名

概要：

- ・総合司会 キャロライン・オークリー（九州大学人文科学府修士1年）

1. 開会式 13:00-14:00

- ・開会あいさつ 藤木 九州大学理事・副学長

G30は、2009年に13の拠点大学によって開始された後、英語だけで学位取得が可能な国際コースが一举に増え、我が国の留学生の増加を支える本柱となってきた。九州大学では、この5年間で留学生が1.4倍に増え2,000人を超えるまでに至る。他の拠点大学でも留学生増加とともに、体制整備も進んだ。

本日のシンポジウムには大学教職員や学生から民間企業の方まで500人以上の参加登録をいただき、幅広い人たちがこの事業の成果に関心を寄せていることを示している。大学国際化に寄与する熱い議論を期待する。

- ・基調講演 二宮 比治山大学・比治山大学短期大学部学長

G30事業は日本の大学のブランド化と優秀な学生の獲得において、大きな役割を果たし、その成果は大きい。採択校が事業を進める上で、全学的な協力体制の構築における困難な課題も浮かび上がった。今後も、この事業を日本人学生への刺激・波及効果をとおし、いかにグローバル人材育成につなげるか、また、スーパーグローバル大学創成支援事業との相乗効果をどう高めるかといった挑戦を続けていただきたい。

- ・基調講演 ジェレミー・ブレーデン モナシュ大学教員

日本の大学では「国際化」を進めるにあたり、業務の英語化や教職員の伝統的な役割の再構築といった問題がある。海外の高等教育機関との対比というよりも、より多くの個人が自分の能力を発揮して、世界の学生が魅力を感じるグローバルな大学をつくっていきけるような、内発的なアプローチによる視点を提唱する。



〈開会あいさつ〉



〈二宮、ブレーデン両氏による基調講演〉



〈参加者の様子〉

2. ポスターセッション 14:00-14:30、16:15-16:45

・各G30採択大学による取組をポスター展示により来場者に紹介するとともに、教育関連企業によるブース展示を併設した。



〈ポスターセッション〉



〈企業ブース展示〉



3. 課題別セッション 14:30-16:15

・4つの会場において、それぞれのトピックを設け、G30採択大学がそのトピックに応じたユニークな取組や今後の課題などを発表した。

【セッションA：海外展開で得たもの：広報活動・海外拠点】

〈筑波大学〉海外大学共同利用チュニス事務所(BUTUJ)の成果（13回にわたる日本留学説明会の開催、大学間学術連携ネットワークの構築、北アフリカにおける筑波大学のプレゼンスの向上、志願者数の増加、日本-アフリカ大学連携ネットワークの構築他）、BUTUJの課題と展望

〈東京大学〉インド事務所の開設・整備（他大学との連携、現地スタッフの採用、会計事務所の起用、立地の問題等）、インド事務所の取組と成果（インド人留学生の受入れ動向、成功要因分析他）、インド事務所の課題と展望

〈九州大学〉エジプト・カイロ海外大学共同利用事務所（含：日本説明会及び危機

管理)、受入重点国を中心としたリクルート戦略(高校の開拓、各種日本留学フェアの活用)、九州・山口地域ブランディングプロジェクト、海外展開で得た教訓
 <明治大学>海外拠点の成果・課題・展望(中国拠点・アセアンセンター)、海外広報の成果・課題・展望(パリ日本留学フェア、入試広報活動)、グローバル30で得たもの(待ちから攻めへの転換、学内の変化、他大学との協働)



<大学による発表>



<パネルディスカッション>



<質疑応答>

【セッションB：英語による教育：アドミッション・カリキュラム・教授法】

<名古屋大学>基礎科目開講に関する全学的な協働、開講科目の豊富さ、日本人学生向けの模擬講義の取組(G30 for Everyone)

<大阪大学>英国の大学で評価基準を揃えるために広く行われている「モデレーション」の採用および Teaching Quality Handbook の作成をはじめとする教育水準を上げるための各種取組の紹介

<慶應義塾大学>英語だけで学位取得可能な学部のプログラム(GIGAプログラム)を企画するために行った準備や取組の中でも特にアドミッションに照準を合わせて発表。GIGAプログラム受験者の特徴、入試広報、入試選考、書類選考の変遷及びそのメリット・デメリット、GIGA入試のまとめと今後の展望

<上智大学>既存(国際教養学部)及び新設(地球環境学研究科国際環境コースならびに理工学部グリーンサイエンス/グリーンエンジニアリングコース)の英語学位プログラムについて、カリキュラム構築、アドミッション(入学時期、選抜方法、リクルート方法等)などの運営体制の特長の紹介、各大学と共通すると思われる課題の共有および今後の展望

<立命館大学>2011年度に開設された学士課程の英語コース(国際関係学部グローバル・スタディーズ専攻)のカリキュラムデザイン(含:初期のカリキュラム編成-鏡政策、柔軟性、クロス履修、早期卒業制度、カリキュラム改編に関する課題-語学科目の扱い、多様な学生のニーズ)、外国人教員のインテグレーションの現状と課題(周辺化、疎外、雇用パターンの課題)



<大学による発表>



<パネルディスカッション>



<質疑応答>

【セッションC：国際化に対応した環境の作り方：サポート体制・宿舎】

＜東北大学＞支援体制の整備に関わること（例：寮や短期プログラムの概略）についての概観後、（１）日本人学生と留学生の共修プログラム及び（２）東北地方太平洋沖地震に関わるサポートのふたつの取組について照準を合わせて紹介

＜京都大学＞国際化推進に必要なインフラの充実に向けての取組みを軸に、（１）学内での宿舎建設（URとの連携）、（２）地方自治体との連携（企業との連携）について紹介

＜早稲田大学＞国際化に対応した環境構築について大別して３つのカテゴリーに即して紹介：（１）外国人研究者・研究者へのワンストップ・サービス（ISS=International Scholar Services）、（２）学生が創り・育てる異文化交流コミュニティ（ICC=International Community Center）、（３）外国人学生へのワンストップ・サービス（IAO=International Admissions Office、生活支援）

＜同志社大学＞「グローバル・キャンパス化」に向けての以下を含む取組紹介。（１）FD・SDの取組（含：英文化ワーキンググループ、（２）ラーニング・コモンズにおける留学生への学修支援及び国際交流活動の活性化



〈大学による発表〉



〈パネルディスカッション〉



〈質疑応答〉

【セッションD：学生が見る国際化：Voice of Student】

前日のワークショップで議論された内容をまとめたものを、選出された８名の学生が発表した。フロアからも多くの質問やコメントが出され、壇上の学生のみならず、フロア前方に着席した、その他のワークショップ参加学生が回答する形で、さらに活発な議論が行われた。



〈代表者による発表〉



〈パネルディスカッション〉



〈質疑応答〉

4. 全体会合及び閉会式 16:45-18:30

- ・まず、勝 明治大学副学長が司会を務める中、各課題別セッションで議論されたことについての発表を受け、開会式基調講演者お二人からのコメントをいただいた後、登壇者によるパネルディスカッションを行った。

・ つづいて、フロアからの質疑応答では、G30採択大学からのコメントやその他大学関係者などによる質問が出された。

・ プレゼンテーション「グローバル30～これまで、そしてこれから～」 有賀 文部科学省高等教育局高等教育企画課国際企画室長

G30 がスタートした背景には、世界の大学間で国際競争が激化する中、日本の大学は競争に伍していくだけの国際化が不十分だという認識があった。文部科学省としても G30 のような取組は初めてであり、行政事業仕分けの対象となりながら、コース開設数や外国人留学生・教員数、また G30 ウェブサイトへの訪問者数などに大きな成果が表れている。シンポジウムのテーマに即していえば、この 5 年間で 13 大学は大きく変わった。一方、ますます加速する世界のグローバル化に向けさらに変わり続ける体制が必要だと思う。

・ 閉会あいさつ 羽田 東京大学副学長

基調講演では取組の評価とともに、今後の方向性について貴重な提言をいただいた。また、課題別セッションでの多彩な意見交換は 13 大学以外の大学や産業界にとっても有益であったろう。

本日、印象深かったことは、まず、学生による活発なディスカッション。このような学生が G30 により日本で学んでいることが分かったのは大きな収穫であった。また、13 大学が数々の苦難を乗り越えて 5 年間連携・協力してきたこと、そして、G30 が日本の大学教育を見直すいい機会になったということを確認できた。来年度以降もこのネットワークを基盤に、より多くの大学とともに、大学国際化に向けて行動していきたい。



〈課題別セッションまとめ及びパネルディスカッション〉



〈有賀室長による発表〉



〈閉会あいさつ〉



〈会場の様子〉



〈フロアからのコメント〉

5. 懇親会 18:45-19:45

- ・緒方 九州大学総長特別補佐による司会のもと、東島 大阪大学理事・副学長の乾杯で始まった懇親会は、312人もの参加者を迎えての盛り上がりを見せた。



〈乾杯のあいさつ〉



〈懇親会の様子〉



〈締めあいさつ〉